IDEC 株式会社
2027 年 3 月期　2Q 決算説明会　質疑応答要旨
（2026 年 11 月 6 日開催）

Q. 上期実績を踏まえると通期業績予想が低い想定となっている背景。

A. 10 月 2 日に上方修正した通期業績予想は、市場環境を踏まえてある程度保守的に見た計画。進捗率はかなり高くなっており、想定を上回る状況は継続している。売上計画の達成に向けて、生産キャパシティ拡大のためのコスト増加や、今後の成長のための開発投資、人的投資なども下期に予定している。状況を踏まえて、今後計画を見直す可能性もある。

Q. 各地域の受注状況。

A. 日本・中国は半導体などの需要が好調。日本では基幹システム見直しを予定している影響もあり、2Q の受注が伸びている。欧州は 1Q の反動で 2Q は若干減少したものの、欧州・米州ともトレンドは大きく変わっておらず、引き続き成長が期待できる。
受注残が増えていることから、スムーズに供給できる体制構築を推進している。

Q. 1Q 比で 2Q に HMI の売上が伸び悩んだ理由。

A. 1Q に好調だった欧州売上の反動の影響もあり、一時的な傾向と認識している。

Q. 2Q の営業利益率が 17.1%まで伸びた背景。関税関連の影響。

A. 価格改定による改善効果に加え、日本や中国で高収益な安全関連機器の売上構成比が上昇していることなどが寄与している。
利益には、米国関税に関する支払いや顧客への価格転嫁、関税還付の影響も含まれている。

Q. 価格改定の進捗。

A. 顧客の理解を得ながら、グローバルで価格改定や、米国の追加関税の価格転嫁を推進しており、計画通り進んでいる。

Q. 日本での基幹システム刷新のリスク。

A. 海外子会社で先にシステム導入を行っており、そこで出てきた課題を継続的に管理しながら、日本での導入を慎重に進めている。

Q. データセンター、半導体関連の需要の継続性。

A. プロジェクトサイクルとして、今後半年から 1 年程度は大きな影響は出ないと見ているが、それより先の投資判断については不確実性がある。

Q. 部材不足の影響。

A. 電子部品の納期は延びている状況だが、通期見込みを達成するための部材の確保を引き続き進めている。

IDEC株式会社

Q. サイバーセキュリティ対策。

A. 製品面での対応では、IEC や欧州で今後適用されるサイバーセキュリティ関連規制への対応として、電子関連製品で必要なサイバーセキュリティ強化のための対策を進めている。同時に、会社全体のサイバーセキュリティ対応についても、段階的にさらに強化する方針。

Q. 中計最終年度の計画数値修正のタイミング。

A. 5 月の通期決算発表のタイミングで発表させていただく予定。